

審 査 講 評

畜産ニューテック協会主催の第34回和牛枝肉共励会が、東京都中央卸売市場食肉市場にて盛大に開催されましたことに対し、心よりお慶び申し上げます。

本共励会は、「家畜改良事業団の種雄牛を使用した体外・体内受精卵移植により生産・肥育された黒毛和種の枝肉を広く需要者にアピールするとともに、受精卵による黒毛和種の生産振興に寄与すること」を目的に開催されました。

日頃より丹精込めて生産、肥育されてこられました出荷者及び生産者の皆様のご努力と主催者の畜産ニューテック協会ならびに協賛の家畜改良事業団、東京食肉市場他、関係各位のご尽力に対しても敬意を表する次第であります。

枝肉の審査は当協会の「牛枝肉取引規格」を基準として枝肉を総合的に評価して、依頼されました審査員の投票及び合議により公正に実施しました。審査員を代表して出品牛の概要と審査結果についてご報告いたします。

今回の共励会には10都道府県の16団体の出荷者から和牛60頭の出品（去勢：41頭、雌：19頭）がありました。（前年32回は去勢50、雌5頭）格付結果は、

和牛去勢は A5：21頭、A4：17頭、A3：3頭、

和牛雌は A5：10頭、A4：4頭、A3：3頭、B3：1頭、A2：1頭で

「4」等級以上率は去勢の方は92.7%と前回よりさらに素晴らしい成績でした。

【和牛去勢41頭の格付結果】 前回：32回との比較・

	枝重	ロース	ばら	皮下	基準値	A率	5等率	4up率	BMSNo.
今回	553.0	70.6	8.4	2.6	74.9	100.0	51.2	92.7	7.8
32回	555.1	71.9	8.6	2.5	75.3	100.0	42.0	90.0	7.6
最大	664	90	10.3	4.6	78.1				
最少	427	54	7.2	1.4	72.3				
全国	490.7	61.2	8.0	2.5	74.3	92.8	35.7	78.5	6.9

※全国平均は、平成28年度の数值

まず去勢の平均月齢は28.4か月齢（26.3～34.5ヶ月）

和牛去勢の枝肉重量は、最も大きいもので664kg、小さいもので427kg、平均553kgとなっており、これは28年度の全国平均490.7kgと比べて、かなり大きな重量の枝肉が出品されていたこととなります。ただ全国平均を下回った

枝肉も5頭ほど出ております。ただ全体には530～630 kgまでの範囲で概ねばらつきなく揃っておりました。最近の枝肉相場は各等級間でかなり価格差が出てきており、下位等級の格付になればなるほど枝肉重量が取れないと経営的にも大変でありますので、通常出荷も含めて少なくとも全国平均より大きくして出荷されることを心がけて欲しいものです。

また、ロース芯面積も大きいもので90 cm²、小さいもので54 cm²、平均70.6 cm²と、28年度の全国平均61.2 cm²より大きくなっています。またややハート芯の形状のものが4頭ほど散見されましたが、60 cm²未満は3頭だけでその他60～70 cm²台の範囲内でばらつきなく収まっておりました。

ばらの厚さについても最も厚いものは10.3 cmで、やや厚みに欠ける7 cm以下はなく平均で8.4 cm。昨年の平均値8.6 cmよりやや薄くなりましたが全国平均8.0 cmを上回り、カルビと言われる腹鋸筋も厚みがあり、交雑状態の充実したばら肉が多く見受けられました。

また肉質面では、肉色はBCSNo. 3～4番の範囲内にすべて収まっており、購買者から敬遠されがちな濃い肉色（No. 5番以上）は出ていません。BMSの平均は7.8とサシの入りが十分で、光沢の良好な枝肉が目立ちました。脂肪交雑では「5」等級の条件であるBMSNo. 8以上のものが21頭：51.2%、No. 10番以上は9頭：18.3%を占め、皆様の肥育技術のレベルの高さを改めて再認識いたしました。

【和牛雌19頭の格付結果】前回5頭：32回との比較

	枝重	ロース	ばら	皮下	基準値	A率	5等率	4up率	BMSNo.
今回	501.4	70.9	8.0	3.0	75.0	94.7	52.6	73.7	7.1
32回	475.2	70.2	7.9	3.3	75.0	100.0	40.0	100.0	7.2
最大	595	90	9.3	4.8	77.9				
最少	412	52	6.7	1.7	70.8				
全国	427.6	56.8	7.5	2.8	73.9	80.2	26.5	61.7	6.1

※全国平均は、平成28年度の数値

雌の平均月齢は29.0ヵ月齢（25.8～32.6ヵ月齢）

雌についても、平均重量は 501.4 kg、全国平均より+73.8 kg大きく、前回より

+26.2 kg大きく取れております。全国平均より小さい枝重が 1 頭（412 kg）だ

け出しましたが、最大で 595 kgで雌でも 500 kg台が 12/19 頭としっかり重量は取

れていました。

ローズ芯面積は大きいもので 90 cm²、小さいもので 52 cm²、平均 70.9 cm²。また

ばらの厚さも平均 8.0 cmで、それぞれ昨年 of 全国平均を上回る数値となっています。

その結果、今回雌牛の歩留等級については 18/19 頭が A 等級でしたが、個々に見てみると皮下脂肪が全体に厚いもの又は表面脂肪の腰部から腿にかけて無駄な脂肪が付着している枝肉が目立ちました。

雌の肉質等級については、「5」等級が 10 頭、「4」等級が 4 頭と、「4 等級以上」率が 73.7%と全国平均の 61.7%を上回りましたが、「3」～「2」等級も出現しており前回より肉質に少しばらつきが出ました。

さて入賞牛については、最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点、優良賞 4 点及び特別賞 1 点を選抜しました。

栄えある**最優秀賞**には、枝肉No.7 3 番、(株)加藤牧場様出品の去勢牛を選抜しました。血統は「父：安茂勝」枝肉重量 5 3 3 kg、ローズ芯面積 6 6 cm²、ばらの厚さ 9.6 cm、皮下脂肪厚 1.6 cmで歩留基準値が 76.3。

表面脂肪はやや薄めに均等に付着しておりましたが、切開面はローズ芯は大きいだけでなく、筋間脂肪のカミあぶらが少なく無駄のない使いやすい状態に仕上がっていました。

また、肉質面でも BMSNo.は 1 1 番で、小ザシがよく入ったきめの細かさに優れ、ローズ芯だけでなく僧帽筋や広背筋のかぶりやばらの腹鋸筋などしっかりと均一に入り脂肪交雑が良好な枝肉でした。

【最優秀賞】

枝肉番号	7 3	受賞者 群馬 : (株)加藤牧場 様					
等級	BMS	BCS	重量	ローズ	ばら	皮下	基準値
A 5	1 1	3	5 3 3	6 6	9.6	1.6	76.3

優秀賞3点については、

枝肉No.71番：(株)加藤牧場様出品去勢牛

枝肉No.79番：(有)小林牧場様出品雌牛、

枝肉No.109番：会田畜産様出品去勢牛を選抜いたしました。

No.71はやや粗サシ(BMS11)ですが、最優秀賞同様、皮下脂肪薄く切開面は無駄のない肉量の期待できる枝肉(脂質はやや硬め)でした。

No.79はばらやかぶりが厚く脂肪交雑が腿抜けとともに良好で、BMSNo.10番でしたが小ザシがよく入った雌らしい脂質に優れている枝肉でした。

No.109番はロース芯面積が90cm²と大きく、ばら(腹鋸筋5.0cm)やかぶり(僧帽筋4.6cm、広背筋6.6)も極めて厚く、ボリューム感あふれる外観で、BMSNo.12番と最高ランクで、最優秀牛に負けず劣らず素晴らしい枝肉でした。

【優秀賞】

枝肉番号	等級	BMS	BCS	重量	ロース	ばら	皮下	基準値
71	A5	11	4	491	82	8.4	1.6	78.1
79	A5	10	4	468	78	8.6	1.7	77.9
109	A5	12	3	595	90	8.8	3.3	76.6

優良賞4点については、枝肉No.83番、84番、102番、119番の4頭、特別賞に枝肉No.69番を選抜しましたので、褒章下さるようお願いいたします。

瑕疵については、今回「シコリ」や「アタリ」など6頭発生していますがいずれも軽いものでした。但し瑕疵の発生は枝肉の評価を大きく下げる要因となります。特に「アタリ」など日頃の肥育管理次第で避け得る瑕疵についてはより一層慎重な取り扱いをお願いします。

【瑕疵発生状況】

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	計
今回			3	2	1		6
前回	1		3	4	1	1	10

最後になりますが、今回の共励会の結果が以上のような好成績を収められたのは、良い種雄牛と受精卵移植からの繁殖及びそれを仕上げる皆様の確実な肥育技術があつてこそその成果であります。全国的に繁殖牛を含め肥育頭数減が続いている中で、家畜改良事業団の種雄牛を使用した受精卵移植牛がさらに普及し、生産振興に貢献できるよう今後とも関係者の皆様の益々のご精進、ご研鑽

を祈念いたしまして、審査報告といたします。

平成29年8月4日
審査員 公益社団法人 日本食肉格付協会
関東支所長 厚地 政洋